

はじめに

プログラム委員長 武田 英明

本論文集は日本ソフトウェア科学会「マルチエージェントと協調計算研究会」の第 10 回ワークショップ(第 10 回マルチ・エージェントと協調計算ワークショップ, MACC2001)で発表されたものを集めたものである。MACC2001 においては投稿された論文はプログラム委員による査読を受けて、著者による加筆・修正ののち発表、本論文集に掲載というプロセスを経ている。本年度は、通常セッションにロングペーパー 9 件、ショートペーパー 7 件、特別セッション 10 件の発表が行われた。

MACC2001 は金沢のラポート兼六を中心に 2001 年 11 月 16 日、17 日に開催された。参加人数は約 60 人で、基本的に全員泊りがけで行った。

初日は前日より金沢大学で開催していた電子情報通信学会人工知能と知識処理研究会と共同企画でパネルを行った。その日は懇親会を兼ねた夕食の後、発表者以外の参加者の 30 人弱のポジションペーパー発表が行われた。ポジションペーパー発表とはいえ、興味深い発表もあり、活発な質疑が行われた発表もあった。

翌日からは 2トラックの平行セッションとして行った。今回は、特別セッションに多数の論文が集まったため、基本的に 1つのトラックを特別セッションとして行った。

通常セッションは、ロングペーパー、ショートペーパーを織り交ぜ、「コミュニティのためのエージェント」、「ロボット」、「エージェントモデル」、「エージェントプロトコル」、「学習と知識獲得」というセッションに分けて行った。

特別セッションは「ゲーム理論 / 意思決定 / 経済学的アプローチに基づくマルチエージェント」というテーマで 10 件

の発表が行われた。時間帯によっては通常セッションよりむしろ特別セッションの方に人があつまり、立ち見ができる状況であった。従来の MACC の発表者が人工知能を中心とする情報工学の分野であったのに対して、この特別セッションの発表者はセキュリティの研究者や経済学の研究者など幅広いものであり、この分野が広範な範囲の人々の興味をひきつけており、今後の発展の可能性を示していた。

このようにマルチエージェントの分野は単に人工知能あるいは情報工学の特定の興味でなく、広範な興味・話題を含みようになっている。このような認識のもとで MACC は来年度は電子情報通信学会人工知能と知識処理研究会と共同で、エージェント / マルチエージェントの話題を広く含むような会議として開催されることになった。同じく 11 月中旬に函館での開催が予定されている。

本ワークショップ開催にあたってはプログラム委員のみならず、皆さまの協力のもとで成功裏に開催することができた。ここに感謝の意を表する。

Preface

Hideaki Takeda, 国立情報学研究所, National Institute of Informatics.